

▶平成二〇年度東海・北陸地区学生指導研修会 開催報告

「平成二〇年度東海・北陸地区学生指導研修会」は、学生指導業務を適正かつ円滑に処理するために必要な基本的知識等を習得することにより、学生指導職員としての資質の向上を図ることを目的に、浜松医科大学の協力のもと七月十六日から三日間にわたり愛知県勤労会館において開催され、学生指導業務に関わる職員九八名が参加しました。

最初に、本機構大協東海副支部長の司会により開会し、主催者として中村東海支部長から、「入学から卒業までの大学の教育の改善充実に加えて、学生相談、経済的支援、課外活動支援、キャリア教育及び就職活動支援等、学生支援に関わる課題は、山積している。この研修会においてそれぞれ工夫改善されていることや講師による講演の中から新たな解決策を見つけてい

たい」と挨拶いたしました。

続いて、国立大学法人 浜松医科大学小出幸夫（教育・国際交流担当）理事から協力大学として挨拶がありました。

また、文部科学省高等教育局学生支援課 市川裕千厚生係長から挨拶及び学生支援に関する諸問題について、①奨学金事業の充実、②留学生交流の推進、③学生支援全般等の政策

説明がありました。

その後、オリエンテーションに続き、

講演（１）「初年次からの学生生活への適応の支援について」のメインテーマについて、静岡大学 三浦真琴教授から『育ち』と『学び』の共有、『学生中心の大学を実現するために』と題して多様な学生への対応について、教職員は何をすべきなのかを問う講演がありました。

班別討議（１）では、各研修室に移動し、「初年次からの学生生活への適応の支援について」を課題に、中等教育からの移行を円滑にするとともに、学生生活への適応を促進するような支援の充実を図る観点から討議がなされました。

研修後の情報交換会は、協力大学の浜松医科大学学務部 石津成生学務課長の挨拶後、岐阜大学学務部 小林勝則教務・学生支援課長の乾杯の音頭で開会しました。会場内では、名



刺交換をしたり、地域、大学、班別メンバーを越えて情報交換や談笑したりする光景が見られました。最後に次期協力校の三重大学学務部 小田裕久教務チームサブリーダーから、来年度開催の協力願いを含め挨拶があり、閉会しました。

二日目の講演（２）では、「学生の学習にどのように関わられるのか」をテーマに名古屋大学 中井俊樹准教授から「ティップス先生からの七つの提案」の冊子の紹介とともに、これらを活用することにより教務事務職員の役割を再定義し、現場の具体的な実践方法を議論し、実現に繋げる一助としてもらいたいとの講演をしていただきました。

講演（３）では、「就職支援の実践と課題―多様な学生に対するキャリアサポートの視点から―」をテーマに日本福祉大学キャリア開発部 浦田雄司次長から就職支援を取り巻く諸時勢とキャリア教育の現状について講演していただきました。

午後からの班別討議では、受講生が事前に提出した提案議題に基づいた個別テーマについて、活発な討議がなされ、その後、翌日の全体会議班別討議報告のためのまとめが、座長、記録者及び報告者で行なわれました。

三日目の演習では、「学生相談に関するコミュニケーションスキル」をテーマに中部大学 桐山雅子教授から学生の話を聞く重要性についてロールプレイを交えた講演がありまし

た。

引き続き、全体会議では、各班の報告者から班別討議報告が行なわれ、出席した座長からコメント・感想が述べられました。

閉会式では、受講生の代表に中村東海支部長が修了証書を授与し、「これからは事務職員が大学等をリードしていくべきだと考えている。現在は管轄外の話でも将来リーダーになった時、この研修会の内容が活用できると信じている」と挨拶した後、閉会しました。

